



市立図書館（淡彩画：登別美術協会 長田清さん）

市民ライター
田中なぎささん

たなか なぎさ
常盤町在住。
苫小牧市出身。平成8年
に結婚し、登別市に転入。
現在、6歳の娘を育てる
主婦。



本の扉を開いてみよう

読書のすすめと 市立図書館の役割

心の中の水脈に清らかな
水をあげましょう

「子どものころは、読書が苦痛でした。それに、感想文を強いられたりして。本を読みながら子どもへの気持ちが変わります」と、子どものころの読書体験を話してくれたのは、絵本の読み聞かせサークル『おはなしほけつと』（昭和55年結成）の代表として活躍されている須藤和恵さん。

「私も、娘にもっと本を読んでほしくて『おはなしほけつと』に入会したんですよ。親って、字を

身の回りに物や情報があふれる中で
いわれ続けているのが
子どもの読書離れです。
子どもたちに読書の魅力を伝えようと
取り組まれている方々を訪ね、
読書の大切さと
そのすすめ方、そして読書活動を
充実していくための図書館の役割などを
レポートしました。



須藤 和恵さん

覚えるとか、読みが上手になるとか、学力に結びつけて読書を強要してしまいがち。活動を通して感じたことは、子どもたちに自然な形で本に触れられる環境を与えてあげることの大切さです。そして親子で読書し、感動を共有することができたらすてきですね。子どもの読書は、心の中の水脈に清らかな水を滲み込ませるようなもの。



市民レポートは、市民のみなさんが自由に発想・企画するページです。

「いつか泉になって、豊かな人間性をはぐくんできれると思います」
朝の読書で気持ちを整えて一日の授業がスタート

みなさんは、『朝の読書運動』をご存じですか。高校の先生の提唱により昭和63年からスタートし、全国的な広がりを見せている運動で、毎朝始業前の10分間、全校あるいは、学級一斉に本を読むというものです。

- その特長は、
1. みんなでやる
 2. 毎日やる
 3. 好きな本でよい
 4. ただ読むだけ
- の4点にまとめられています。

市内では、幌別小学校が平成12年度からこの運動に取り組み、8時20分から8時30分までの10分間を『読書の時間』とし、全校一斉に読書をしています。

「時間が短いので、読書が苦手な児童でも負担なく読めます。課